

○ 町営簡易水道給水状況 (町発行「大和」1974より)

簡水道	易名	設置年月日	計画給水人口	普及率(%)	年間総排水量(m)	一日平均給水量(m)
春日野	日口	S. 34. 8. 15	4,400	85	318,070	871
春日丘	野口	42. 11. 1	100	88	740	2
春日野	丘野	32. 6. 20	500	99	111,549	305
春日野	野	31. 12. 10	700	59	66,913	185

ため多くの井戸が掘られている。特に現在は農薬撒布による葉害、廃水による公害等が多くなつてきており又諸種伝染病予防対策のためにも水道事業は重要な町施策の一つである。

当町における町営簡易水道の設置状況は上記の表のとおりであるが、昭和三十五年から同三十六年にかけて次の部落では部落水道を設置している。

福田、佐熊、久池井、惣座、平田、東山田、於保、久留間、吉富、江熊野、今古賀、大願寺、同田端、大久保(東、西)

これらの水道による給水人口は町人口の約三八パーセントであるが、個人水道も多いので、水道による給水人口がほとんどである。

## 八、観光

昭和三十七八年頃から日本は経済成長が急激に伸び、それに連れてレジャーとしての観光はますます盛んになった。わが大和町は佐賀県の歴史の縮図とも言われ、歴史編で述べているとおり、古代の古墳を始め、国府があり、国分寺があるなど史蹟や古社寺が多く、町内の至る所に散在している。こうした歴史

の跡を訪ねるもよく、又川上峡一带を中心とする県立川上公園は日本百景の一にも属し風光は肥前嵐山の名にふさわしく、特に夏は涼風を追い水を求めて、町民はもとより佐賀市民の憩いの場となり、県外から訪れる人も年々数を増している。

### 1、川上峡観光協会

観光思想の高揚宣伝、観光施設の改善助長を促進し、観光客の誘致により産業の発展に資する目的のもとに、昭和三十二年七月十二日、川上峡観光協会が発足した。

本協会には会長、副会長、理事長、監事等の役員と会費制による会員があり、絵葉書、ポスター、案内書等を作製したり、施設の新設や改善、観光資源の開発史跡探訪の催し等種々の事業を行っている。

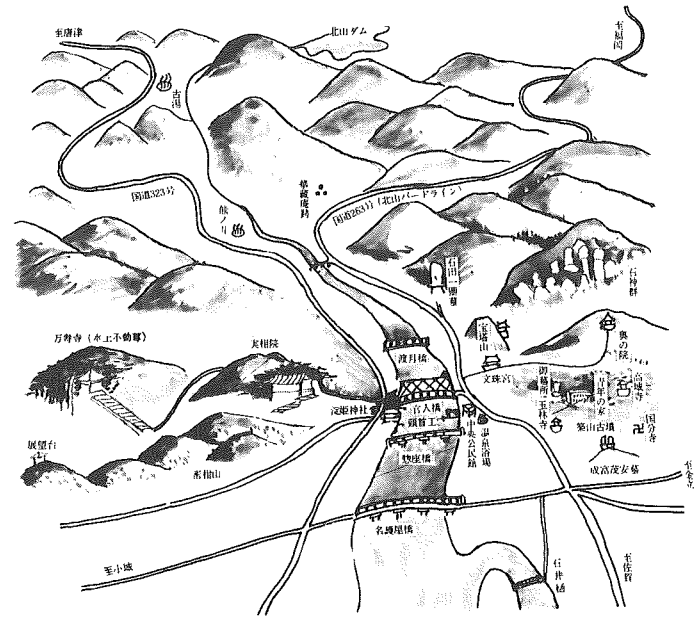
### 2、文化財調査委員会

当教育委員会は数名の文化財調査委員を委嘱して、文化財の発見、調査、保護保管に努め、町内の主な史跡には説明板を設けたり、標木を建てたりして、文化財に対する認識を深め、郷土を愛し、観光客に対する案内として力を注いでいる。

### 3、県立川上公園

大和町のほぼ中心にある川上峡は、北山ダムを源とする川上川(嘉瀬川上流)の中流で、清流と深緑の美しい山溪から成り「九州の嵐山」と呼ばれる名勝の地である。春は桜、夏は川遊びやキャンプ、秋は紅葉にハイキング、冬は静かな雪景等四季を通じて行楽客に親しまれている。又昭和四十一年

## 川上県立公園一帯



には観光開発のため川上峡一帯の地質及び地下水の調査を行い、中央公民館敷地内に四百五十メートルの掘きくをし含土類重曹泉として浴用、飲用に適する泉源を得、各旅館に給配すると共に町営の温泉浴場を建設、住民はもとより近郊の人々に広く利用されている。川上峡の東岸を南北に走る国道二六三号線は昭和四十五年十月五日に全面開通し「北山バードライン」の愛称で広く知られ、佐賀市と福岡市を結ぶ最短道路として産業に観光に活用されている。又川上から西岸を走る国道三三三号線は温泉郷古湯を経て唐津市に至る重要道路である。

この川上峡一帯には特に名所古跡が

多いが、その各については歴史の部で詳述しているのでそれを参照されたい。ここで川上峡が県立公園に指定された経緯を「佐賀の八十五年」から引用しておく。

『昭和四年八月七日県告示が出され、南部は都渡城の入口に当たる丸山公園から、北部は佐賀と小城の郡界、東岸名号谷<sup>みょうこうだに</sup>まで総面積二十ヘクタールの広大な県立公園が誕生した。指定に至るまでにはいろいろの問題があった。大正十一年東邦電力会社が発電所の取水口を松梅村広坂とし、放水口を都渡城とする工事計画の許可を取り大正十五年には工事に着手した。これを知った肥前史談会を中心とした佐賀市民が怒り「川上は名勝の地だ。郷土の誇りである仙境を台無しにしては困る」と史跡保存会を設立して反対運動を始めた。知事に「工事を速やかに中止せしめられ、皇国の誇りたる景勝地の保存あらんことを」と嘆願した。だが、何の反応もない。そこで保存会では東邦電力会社に掛け合った。しかし話はつかなかった。同年十二月二十日、保存会は百余人の連署で知事に二回目の嘆願書を提出したが糠<sup>ぬか</sup>に釘<sup>くわ</sup>。会社とも翌年、現地調査をしながら話し合ったが相手にもしてくれなかった。知事も三度の嘆願書を出したが「決定通り実行する」との回答であった。佐賀新聞は「名勝破壊者は電燈会社」と訴え、こうした世論の反撃に知事も重い腰を上げて、会社との調停を約束した。

昭和二年七月には川上峡が日本百景に入選し、保存運動はいっそう燃え上った。話は県議会に持ち込まれ、昭和三年の通常県会で県立公園指定が議決された。同時にかねて計画中の川上保勝会の組織ができ、会長には佐賀市の福田慶四郎氏が就任した。』



実相院から水上の万寿寺に至る道路(上宮さん付近)より川上川を望む

明海や雲仙を望む風光絶佳の場所である。

(3) 展望台

大友公園へ上る途中の密柑園の一角にあずま屋が建てられている。密柑の花咲く五月ごろの甘酸っぱい香り、密柑の熟れるころの黄金の錦、下手近くには昔ながらの前方後円墳の船塚を眺め、はるかに広がる佐賀平野と、遠くにかすむ不知火の海の眺めは正に展望台の名に恥ぢないものである。

(4) 児童遊園地

石井樋公園は又児童遊園地でもある。尼寺の築山古墳を中心とする児童遊園地は昭和四十三年(一九六八)に尼寺町民によって造成された。ブランコ、すべり台、噴水等の施設があり、古墳の上には成富茂安らの墓もある。

(5) 川上温泉

当町は観光開発を目指して、昭和四十年(一九六五)三月から地下水の調査を一年計画で実施し、中央公民



大友公園

4 その他

(1) 石井樋公園

石井樋については歴史篇で詳述したとおりだが、現在は町の公園として遊具等も設置している。現在はこの石井樋を通さず大井手幹線上流部より分水して多布施川に注水するので、昔の面影を留むるに過ぎないが、なお成富茂安の水功記念碑を中心とする広場、白砂に樹陰を樂しみ、水遊び、川魚捕り等行楽客は絶えない。又佐賀市から多布施川畔をとり惣座橋に至る自転車道も計画されているので今後いつそ脚光を浴びるであろう。

(2) 大友公園

赤坂山の中央登り口から約一キロ上ると、元亀元年(一五七〇)佐賀勢に敗れた大友八郎親貞の墓碑がある。この墓は元戦死した場所にあつたものを移転し、更に今山陣跡の記念碑を建立して、つつじ等を植え公園としている。周囲は皆密柑園であるが、佐賀平野を一望に納め有

# 文化財



実相院仁王門



川上温泉浴場

館敷地内に四百五十メートルの掘さくをし、含土類重曹泉として浴用に豊富な泉源を得、各旅館に給すると共に、昭和四十五年四月一日から中央公民館東側に町営の温泉浴場を開設した。

## 5 主な産物・名物

密柑は「佐賀密柑」として全国的に知られ、松梅の干柿<sup>ししがき</sup>、茄子、名尾紙等県外にも親しまれている。その他ぶどう、桃もとれ、川上川流域では川魚やわらび・ぜんまい等の山菜料理が行楽客を楽しませている。

## 6 釣場その他

川上川の頭首工より上流に若鮎<sup>あひ</sup>を放流しており、又はや釣りは至る所でできる。投網もよく、更に上流に進むとやまめも住んでいる。川上川一帯は夏期は水泳、キャンプ等に適し貸ボートもある。